

## 7月学院福音化、第2課

学院福音化第2課 「神様がくださった救いは信仰で味わうことができる」です。

ガラテヤ2:20を読みます。

「もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。  
今私が肉において生きているいのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです。」

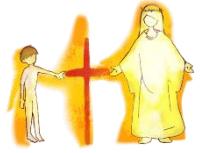
今回のガラテヤ2章を通してパウロの神学の華ともいえる「信仰による義」についていっしょに默想しましょう。

新約聖書の順序では、ローマ1:17で「義人は信仰によって生きる」というみことばが最初に記録されていますが、先週申し上げたように、パウロの手紙の中で最初に書かれたものがガラテヤ人への手紙であるため、信仰によって義と認められるということは、ガラテヤ人への手紙が最初です。いっしょに読んでみましょう。

ガラ2:16「しかし、人は律法を行うことによってではなく、ただイエス・キリストを信じることによって義と認められると知って、私たちもキリスト・イエスを信じました。律法を行うことによってではなく、キリストを信じることによって義と認められるためです。というのは、肉なる者はだれも、律法を行うことによっては義と認められないからです。」

正しい信仰生活をしている人には「信仰によって義と認められる」、「救いは信仰によって得ることができる」などの言葉はあまりにも当然に聞こえる言葉でしょう。しかし、律法中心の信仰生活を何千年もしてきたユダヤ人にとっては、それは、でたらめで、根拠もないことであり、理解できない言葉なのです。

だれよりも律法による義については非難されるところがない者だったパウロは、復活したキリストに会った後、イエス・キリストを信じる信仰によって救いを得、義人とされることを手紙の様々な所で記録しています。(ローマ1:17、3:22、3:28、4:5、5:1、ガラ2:16、エペ2:8、ピリピ3:9)。



代表としてローマ1:17節を読んでみましょう。

「福音には神の義が啓示されていて、信仰に始まり信仰に進ませるからです。「義人は信仰によって生きる」と書いてあるとおりです。」

これはただパウロの主張であるだけではなく、聖書全体に流れる主題です。

今日は、上にある聖書のみことばを通して「義と認められる」ということは何であるのか、イエス・キリストを信じるというはどういう意味であるのかを具体的に見てみましょう。

1 ガラ2:16では、法廷用語であるギリシャ語「ディカイオス(δίκαιος)」から派生した「義」という単語を3回も繰り返して使用しています。3回も使用しているのを見ると、重要な単語であることがわかります。

「義」は神様の属性に属するものなので、その根源が人間にはないことを知らなければなりません。人間が自分から働きかける(能動的な)努力によってなされるわけではないので、この節では「受動態(受身、～される)」として記録されています。

また、人間から義になるような何かがあるから義にしてあげるという意味ではなく、義だと認めてあげるということです。

義人はいない、一人もいない(ローマ3:10)、すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができない(ローマ3:23)ので、イエス・キリストを通して彼を信じる者たちを義と認めてくださる道を開いてくださったということです。

② 二番目に、イエス・キリストを信じるということはどういうことなのかを考えてみましょう。

まず、「信仰」の出発と所有権が私にあるのではないことを知らなければなりません。

ガラ2:16で信仰というギリシャ語の「ピスティス(πίστις)」という名詞の尾が「ピステオス(πίστεως)」という名詞の所有格（「～の」という意味）になっています。こ

の言葉を正しく解釈すると、「イエス・キリストを信じることによって」という目的格ではなく、「イエス・キリストの信仰によって」という所有格で解釈しなければなりません

（ローマ3:22も同じ）。ですから、十字架で死んで復活するまで、父なる神に従い、信仰の創始者であり、完成者（12:2）となったイエス・キリストのその信仰が私たちに与えられたので、神様は私たちの中にある御子イエスの信仰を見て、私たちをイエス・キリストを信じる者と認めてくださるのです。それをローマ1:17に記録したように、「信仰にはじまり信仰に進ませる」と話すのです。



イエス・キリストの信仰の完成の場は十字架でした。その信仰を恵みの賜物として受けて、イエス・キリストを信じる者となった私たちに求められるのは、「私は十字架で死んで、私の中に「キリスト」が生きておられることを毎日確認することです。それが日々自分の十字架を負う人生です。私を愛し、私のために自分を与えてくださった神の御子イエス・キリストを信じる信仰の中でのみ、生きることを願い祝福します。